

復興前進一歩ずつ

双葉の希望

ジャーナリスト
スクール第1班

ふたばプロジェクトを取材

ふたばプロジェクトは2019年3月に設立されたまちづくり会社で、主に双葉町内外の人をつなぐ活動をしている。目標は移住者を増やすことと、帰還者も移住者も笑顔で暮らせる未来をつくることだ。

事務所を置く双葉町の旧三宮堂田中医院診療所(旧田中医院)は大正11年に建てられた103年

の長い歴史がある建物だ。震災を乗り越え22年6月に国指定登録有形文化財に登録された。その後、ふたばプロジェクトが町補助金を受けて改修工事を行い、24年11月に移住定住相談センターとして開所し、運営している。新しい建物でなく古い建物を活用することで、移住の相談に訪れた人と双葉の歴史ある建物

の話をしやすくなった。震災前の町を知ってもらおうきっかけになっているという。

ふたばプロジェクトは町内のイベントの開催や運営をサポートしたり、情報を発信することにも力を入れている。建物の壁に絵を描く「FUTABA Art District」は震災後、町民に心の灯(ひ)をともしようと始まった。町ゆかりの人の笑顔が描かれている。

地域活動拠点の「FUTAHOME(ふたほめ)」では、曜日や時間で異なる店が営業したり

で異なる店が営業したり

ふたばプロジェクトのロゴはこのプロジェクトが永遠に続いてほしいという願いが込められている。ふたばプロジェクト

(略称・FPJ)の周りを、無限大のマーク(∞)で囲んでいる。明るい未来に進むことを願い虹色で彩られている。

避難指示解除、伝統の祭りも復活

2011年、東日本大震災と福島第1原発事故の影響で、双葉町民約7100人が町外へ避難した。11年後の22年8月、町の復興拠点の避難指示が解除され、住民の帰還が始まった。避難指示が解除された区域は町の面積の15%の範囲で、現在住んでいる人は185人だ。



東日本大震災が起きた14時46分時計が止まっている双葉町消防団の屯所

私たちが作りました
先崎結来(滝根小6年)
丸山千佳(福島大付属小6年) 岩沢泰地(会津若松一中1年) 大和田康介(白河二中1年) 桑名優空(大槻中1年) 早坂利進(相馬高1年)

★編集後記

「人口が増えるのには時間がかかる。まずはここにいる人の暮らしを楽しみたい」「双葉が好き。帰ってこれて安心して」。双葉町を案内してくれた山根光保子さんと町の人の言葉から双葉町の復興への熱い思いが伝わってきた。双葉のために活動する人々の大変さ、ありがたさを知り、福島県の復興について考えることができた。



建物の壁に双葉町ゆかりの人の笑顔を描いた「FUTABA Art District」。これまで描かれたアートはアート集団OVER ALLSのサイトから見る事ができる



ふたばプロジェクトが事務所を置く旧三宮堂田中医院診療所。移住定住相談センターとして使われ、人が交流する場になっている



旧双葉駅に設置されている「希望のとびら」。町の帰還イベントで使われ、町民が「ただいま」と扉を開けた



地域活動拠点「FUTAHOME」のボード

「双葉町から笑顔をお届け」

ふたばプロジェクト山根光保子さんに聞く

Q この仕事にやりがいを感じることはありますか？

A だいたい町の外から来る人は、あまりいいイメージを持ってないことが多いので「楽しかった」などの感想をもらえると嬉しい。帰り際に笑顔をもらえると、もっと嬉しい。

Q ふたばプロジェクトがやっていることで、今、課題はありますか？

A 移住相談に来る人はいるけど、双葉町には

今、住める家が少ないことが課題です。

Q 私たちにできることはありますか？

A 家族や友人に教えてたり伝えたりすることで。そうすると「双葉いいな」「行ってみたい」などにつながる。多くの人が何回も足を運び双葉町を好きになってくれたらすごく嬉しい。



今回取材で学んだことを忘れず、身近な人に伝えたい。一人でも多くの人に双葉町の魅力を知ってもらおうことで、避難している人に帰ってきてもらったり、町外から移住定住してもらうことにつながる。復興の後押しのため私たちにもできることがある。